

1. 前回の振り返り

○今日は前回協議の2点目「ミライカイギの輪を広げていくためには？」について掘り下げたい

2. 話題提供（佐伯AD）

○まちづくりって、どこまで行政がかかわりつづけるべきなのか？

→役場のものでなく、本当は暮らしている人たちが楽しく暮らすための自分たちのもの

○「縮充のまちづくり」とは

- ・人口減少の裏に、家族の形の変化が見える（世帯数は減っていない→世帯内の人数が減少）
- ・高齢女性の一人暮らしが増える／20歳代の転出が多く、戻ってこない
- ・1年に生まれる子どもが50人を切っている（今すぐにでも教育を考えなければいけない）
- ・数が減っていることは問題ではない（それにより何が起こるかが問題）
- ・ミライカイギでは、主に【充】について考えていきたい

3. 意見交換「佐用町の充実した暮らしってどんなのだろうか」

4. 全体共有

5. まとめ

- ・次回日程と内容については、またお知らせする
- ・意見や言い残したこと等があれば、LINEでいつでもコメントがほしい



【共感キーワード】 こども、共感、ワクワクする大人、選択できる

佐用町全体のこと

- ・佐用町の良いところを知ってほしい
- ・若い経営者が増える町にしたい
- ・小さい、少ないからこそできるコアなまちづくり
- ・楽しいこと（=充）で選ばれる町に
- ・いきなり「まちづくり」ではなく、まずは小さい種から
- ・「比較しないまち」
得意を活かせる。周りを気にしない。
- ・このまちいいよ！って言える人があまりいない。
- ・人口減少に対してそこまで焦っていない。
今が結構幸せな暮らしなのでは？
- ・伝統行事の意味や目的を伝えるべき（残していくには変化も必要）

わたしが思う「ゆたかさ」

- ・依存先がいっぱいある = 充
- ・いろんなコミュニティに属していたい
- ・高齢者が一緒に暮らせる場所づくり？
(その中にいろんな楽しみがあり、誰でも来られる場になればいい)
- ・子どもが楽しいことは、大人も楽しい
- ・大人が目標を持つべき（希望が必要）
- ・子どもプライド（まずママたちが佐用町にプライドを持つ）
- ・いろんな価値観に出会いながら価値観の共有が出来れば
- ・選択肢があることが豊かさ（やる、やらないを選べる）
- ・このまちにいる理由は 「余白」の量が多いから
- ・1時間の単位が長くて、じっくり取り組める
- ・おいしいこととか、楽しいことがとても大事

こどもについて

- ・こどもの選択肢が少ないことが可哀想
- ・こどもたちがネットを上手く活用してコミュニティが広がれば
(ネットを制限するよりネットリテラシーを上げるべき)
- ・ママたちが疲弊している（子どもにとってママの影響は絶大）
- ・高齢者の特技を活かして、子どもたちに教える場
(こどもがやりたいことが出来る = 高齢者の生きがいづくり)
- ・大人がワクワクして楽しんでいるところを子どもに見せたい
- ・こどもたちが支えるまちづくり（こどもたちの佐用町での成功体験）
- ・こどもに伝えるためには、お母さん層に情報を伝えたい

こんな場や仕組みがあれば

- ・佐用を良くしたいという目的で話し合う場（愚痴大会にならないよう）
- ・教育について、こういう場で話が出来ればいいな
- ・趣味の話を共有し、共感してもらえる場
- ・田舎の子どものためのサードプレイス
(田舎の子どもは親に送迎してもらわないと遊びにもいけない)
- ・実行委員会発案で何かをしたい
- ・0→1ではなく、エネルギーのある人や場所、活動を発掘していく
- ・なんかやりたいけど、なにしていかが分からないという人が一定数いる
- ・「やってみたい」が実現できる（場所、お金、機会など）
- ・起業したが、このことを話せる場がほしい

今後も佐用の充実した暮らしを見つけるための対話を重ねる